

3 常任委員会 視察に行きました 調査研究レポート

当議会では、毎年6月定例会で各常任委員会における調査研究のまとめを、会議規則に基づき「議長」に報告しています。町が取り組む多くの事務事業から、常任委員会の所管ごとに重要課題を見定め、先進地での視察研修を行っています。今回は、調査研究のまとめをレポート仕立てで報告します。

研究テーマ

日本一の子育て構想

日 時 平成29年1月12日(木)～13日(金)

場 所 島根県邑南町

出席委員 高橋さゆり委員長 田中照子副委員長 金子美登・戸口 勝・松本修三 各委員

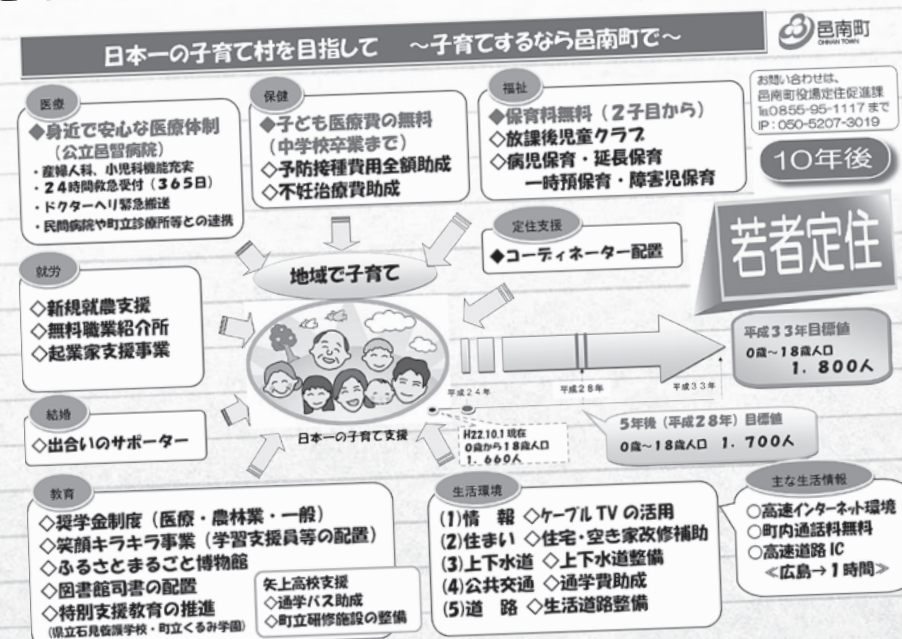
【厚生文教常任委員会】

【調査研究のまとめ】

邑南町では、子育ては定住促進の大きな柱であり、「子育て＝子育て主管課」という発想ではなく、全庁を挙げて取り組むべきものと位置づけられている。このことは、根底に「このままでは町が消滅する」という危機感を町全体が共有していることにある。

当町においても「小川町まち・ひと・しごと創生総合戦略」における基本目標の一つである「若い世代の結婚・出産・子育てに希望をかなえる」ために、今後組織として、関係各課を円滑に結びつけるコーディネート機能を導入するべきと考える。

また、子育て支援策は町の生き残りをかけた最重要施策であり、各種事業について単なる自治体競争におちいることなく「小川町らしさ」を打ち出し、明確なビジョンのもとに展開されることを望むものである。



報告の全文は、町ホームページの「会議録の検索と閲覧」ページでご覧いただけます。
(6月定例会の会議録は8月末ごろ掲載予定です)

【総務常任委員会】

研究テーマ

住民参画によるまちづくり

日 時 平成28年11月16日(水)～17日(木)

場 所 栃木県 宇都宮大学地域デザイン科学部・さくら市

出席委員 島崎隆夫委員長 笠原 武副委員長 山口勝士・宮澤幹雄・根岸成美・高瀬 勉 各委員

【調査研究のまとめ】

平成28年度に新設された宇都宮大学地域デザイン科学部は、付属の「地域デザインセンター」とともに、栃木県内の自治体をはじめとした各種団体と連携し、地域に根ざした取り組み・研究を行なっている。また今視察では、国が進める「小さな拠点づくり事業」において、同学部と共同研究に取り組む栃木県さくら市に赴き、その取り組みの経緯・経過と、主体的な住民参画による生涯学習活動や地域活性化事業等への支援について学んだ。

いずれも、時代の変遷とともに衰退する地域コミュニティに関する対策が鍵であり、前段にあつては地域の情報をデータ化した「地域カルテ」の作成、後段ではキーパーソンとなる人材の発掘・育成が重要である。

図らずも、当町においては今年度新設された防災地域支援課において、これまで以上に、地域に特化した取り組みが展開されるとのことである。大いに期待し、時代や地域の実情に見合った新たな地方自治の姿を見出すよう願うものである。



共同研究促進

少子高齢化対応等の地域課題を解決するため、大学の専門性を活かした分析を行う。また、専門知識を有する教員とのコーディネート強化を図る。

研究テーマ

地場産業を生かした雇用の創出と町の活性化策

日 時 平成28年11月14日(月)～15日(火)

場 所 島根県浜田市

出席委員 大戸久一委員長 井口亮一副委員長 松葉幸雄・柴崎 勝・笠原規弘 各委員

【経済建設常任委員会】

【調査研究のまとめ】

第1回和紙サミット開催地の浜田市を訪問し、和紙を活かした雇用と活性化策について調査研究した。

浜田市では、旧三隅町にある「石州和紙会館」を拠点とした活性化のための体制・対策が図られている。産地の維持拡大のために紙漉き後継者の育成に手厚い支援を行なっているほか、クリエイターの育成や和紙を活用した芸術祭の開催など、和紙の新たな価値を発掘するための使い手の育成にも力を注いでいる。

そしてこれらが生産から販路・市場開拓まで体系的に組織化され、連携が図られている。

細川紙の手漉き和紙技術がユネスコ無形文化遺産に登録されたことを重く受けとめ、浜田市同様技術者と関係者の役割体制及び販路拡大の施策を構築することが重要である。

和紙の郷「石州和紙会館」を拠点とした石州和紙活性化イメージ

